

日経産業新聞

2017年(平成29年) 5月25日 木曜日

NIKKEI BUSINESS DAILY

一関高専のEVレースカーは多くの企業からの技術の結晶

リチウムイオン電池の提供
ミツバ(群馬県桐生市)
モーターの支援
長島製作所(一関市)
バッテリーコンテナの板材の加工支援

千田精密工業(奥州市)
ケーシングの加工・技術提供
匠(花巻市)
内部構成部品の加工支援
三幸自動車工業(宮城県利府町)
曲車の加工・技術提供

日債工業(長野県東御市)
キャリバー・ブレーキパッドの提供

市光工業(神奈川県伊勢原市)
ブレーキライトなどの提供

エヌケーエヌ(大阪府東大阪市)
ドライブシャフト製作の支援



モティー(一関市)
カワルの製作支援

イワフジ工業(奥州市)
フレーム製作の技術提供

「何を作り」「いかに解決」教える

▼社会実装教育 地域社会、企業などからニーズを把握し、それを工学の力で解決する。知識の詰め込みではなく、何を作出すか、いかに問題を解決していくかに力点を置き、新たな基幹産業につながるイノベーションの創出、課題を掛けいくケースもある。

▼社会実装教育 地域社会、企業などからニーズを把握し、それを工学の力で解決する。知識の詰め込みではなく、何を作出すか、いかに問題を解決していくかに力点を置き、新たな基幹産業につながるイノベーションの創出、課題を掛けいくケースもある。

全国に根を張る高等専門学校(高専)。その高い技術力を地域社会に役立てようとする

高専に任せろ

第2部 社会につながる④

「社会実装教育」が脚光を浴びている。学内に籠もらず、町に出て社会の声を聞く。吸収力、感度の高さが社会の成長へと昇華する。若い力、ゴールデンエイジのなせる技だ。「高専に任せろ 第2部」は若い力の奮闘の舞台取材する。

実学が夢を鍛える



(注) 黒名がないのは全て岩手県

納期・予算 厳しさも肌で

その際、中津川さんはこう言っている。頭を下げるという。チームのメンバーはEV開発を志す。経験して社会人になりま。そこそこの地域産業への恩返しです。

その理由がある。全日本学生フォーミュラ大会の基本は自動車免許を取得できる大学生が対象だが、SIFTのメンバーの多くはまだ免許を持っていない。一関高専1・2年生が実動部隊として参画する。研究室で自動車の専門書を読みながら、図面を引き、カレシでは工具を振り回し立てる。高専教育ならではの力がそこにある。EVの製作を通して人もつくるのだ。

全日本学生フォーミュラ大会は安全のため車検を通すことが条件。大会には100チームが参加する自動車関連産業の振興、集約は約10年前からだが、同じEVの競走は、岩手県13チームにとどまった。大人たちの熱い視線が注がれるのは一関高専が「次世代モビリティ開発」の推進地帯に指定された。注がれるのは一関高専が「次世代モビリティ開発」の推進地帯に指定された。注がれるのは一関高専が「次世代モビリティ開発」の推進地帯に指定された。

「年はガソリン部門、北朝鮮に飛び乗り東京、年間の本料を卒業生に上向き実績を挙げて、へ。横浜で始まる自動車、さきほど高度技術を電気自動車(EV)部門、業界の展示会に参加し、学ぶ。年間の専攻科に進んで連動を目指します。第二戦のエンジェラたち、んだ中津川さんは地元産品からの一層の協力と情報交換するための。業界ではちょっとしたを頼みます。

岩手県北上市で20日開かれた、いわて自動車・地域のニーズと高専の強み、全日本学生フォーミュラ大会で昨半海体関連産業を促進、持った。技術の融合を、フォーミュラ大会で昨協議会の合同総会、一関市指定社会実装教育「各年、一関高専と県内3工業高専の中津川さん、地の高専が進めるの取組でつる岩手県学生い約200人の自動車・ではないか。戸谷一英、I F T がEV部門で総半海体関連産業を促進、副校長は中津川さんの活、優勝したから。参戦、年目の快だっ話し終るとその足で東、専門技術を習得する。た、優勝後、遠征も岩

だから高専のゴールデンエイジは強い

- ① 15歳の1年生から専門教育をたたき込まれる
- ② 本科生(1~5年)と専攻科生(1~2年)が同じ環境で学べる
- ③ 産業の社会的変化に合わせて教育カリキュラムを柔軟に変える
- ④ 実業を知る教育が多く、社会人としての基本作法も学べる
- ⑤ 約50年の歴史を持つ学校が多く、地元からの信頼も厚い

30社の技術結集、EVレース制覇

ラ大会は安全のため車検を通すことが条件。大会には100チームが参加する自動車関連産業の振興、集約は約10年前からだが、同じEVの競走は、岩手県13チームにとどまった。大人たちの熱い視線が注がれるのは一関高専が「次世代モビリティ開発」の推進地帯に指定された。注がれるのは一関高専が「次世代モビリティ開発」の推進地帯に指定された。注がれるのは一関高専が「次世代モビリティ開発」の推進地帯に指定された。

取材班は西へ飛んだ
3面に続く

「常識を覆す」

企業がの二人三脚だ。徐々その姿を見つめる大会。今年のコンセアは「常識を覆す」7位。車体全体の設計で100ぶ近い軽量化に成功。TVDも新規設計して、計り大きなトルクをライセに伝える。中津川さんは「ゴールラインに自信を持っている」。